

原子力人材育成関係者協議会

主査 辻倉米蔵様 ご説明資料

原子力人材育成について

平成22年3月

原子力人材育成関係者協議会
ロードマップWG
主査 辻倉 米蔵

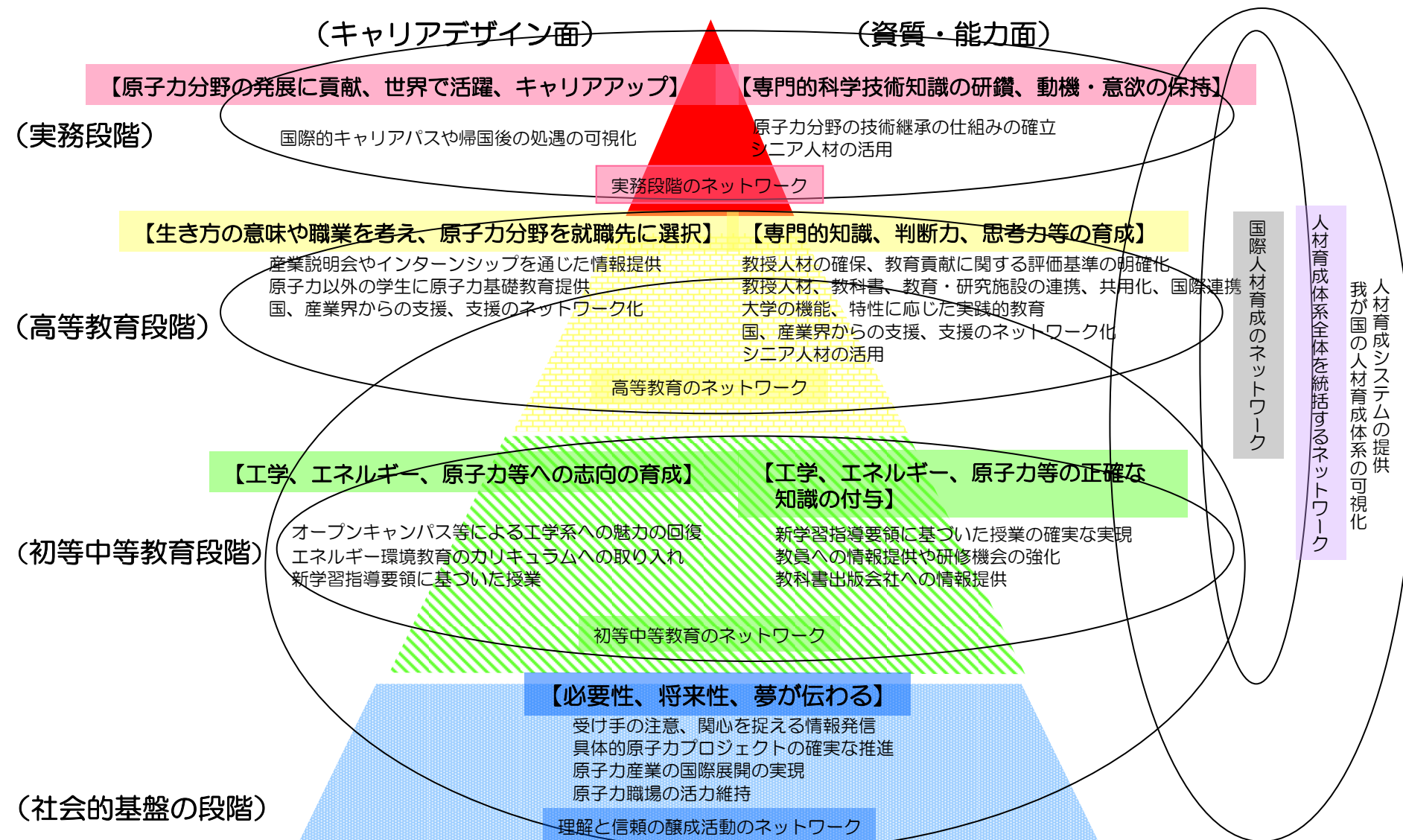
これまでの取組から抽出された課題

- 原子力に対する理解と信頼の醸成、魅力の伝達
- 初等中等教育段階
 - エネルギー、原子力について、正確な知識の付与と志向する動機付け
 - 外部からの支援活動の連携
- 高等教育段階
 - 原子力工学教育基盤の劣化への対応（教授人材の高齢化、後継者（若手研究者）不足、教育・研究炉の老朽化）
 - 教授人材の教育貢献の評価（標準化活動への貢献を含む）
 - 体系的専門教育の提供、コースワークの充実
 - 原子力工学系以外の学生への原子力基礎教育
- 就職後
 - 継続研鑽、国際展開の時代への対応
- 国際人材
 - コミュニケーション力、ディベート力の養成
 - 国際機関への派遣や国際機関の活動への貢献

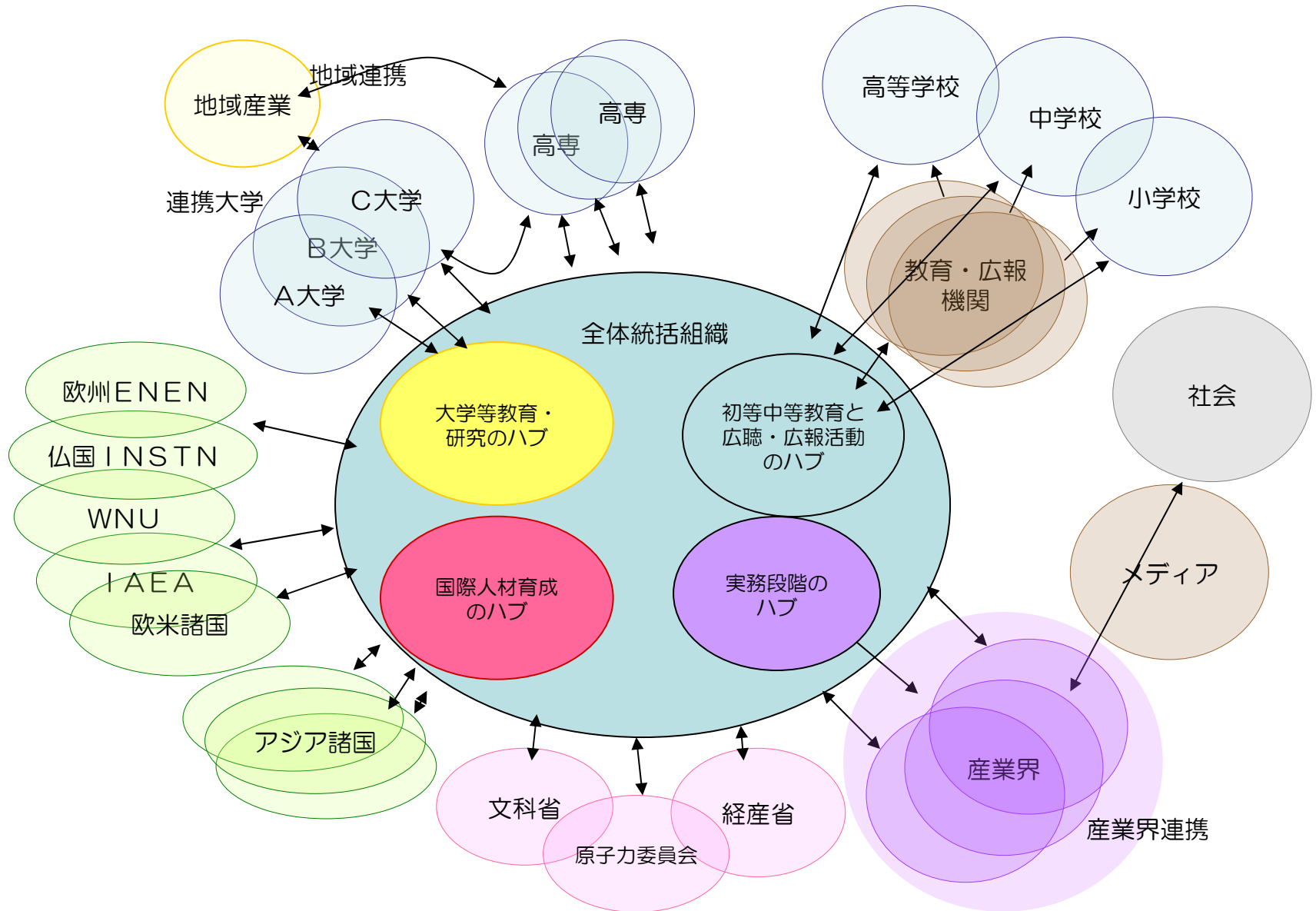
取組の充実が求められる喫緊の課題

- 学習指導要領改訂
- 大学等における原子力工学教育基盤の劣化
- 産業界への人材供給を指向する教育への転換
- 急速な国際化の進展
- 技術継承（暗黙知、形式知の継承）
- ネットワーク化、ハブ化

段階毎の実施事項とネットワーク化



ネットワークとハブの概念



取組の視点

1. 理系、特に工学系への進学者を増やすための取組の強化
2. 原子力の必要性、安全性などの正確な知識の教育、伝達
3. 原子力の技術、研究、産業などの魅力、将来性を社会、特に若い世代に伝達し、学生の原子力への志向性を向上
4. 原子力専門教育の体系再構築と充実強化
5. 国際人材の養成
6. 国際展開に対応する人材育成体制の整備
7. 原子力分野の技術継承の仕組みの確立
8. 人材育成活動の機能に応じたネットワーク化やその中心となりコーディネート、コントロールするハブ設立
9. 原子力人材育成を戦略的に進めるための中核的恒常組織の設立
10. 我が国の原子力人材育成の体系化と可視化